

実践のまとめ（第9学年 社会科）

三条市立大崎学園 教諭 佐藤 一機

1 研究テーマ

**当事者意識をもち、社会的な見方・考え方を働かせながら、問題解決に至る子供の育成
～主権者教育の充実をととして～**

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年告示）では、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を通して、公民としての資質・能力の基礎を育成することを目標としている。また、中央教育審議会答申では、選挙権をはじめとする政治に参加する権利を行使する良識ある主権者として、主体的に政治に参加することについての自覚を深めることなど、これからの社会を創り出す子供たちが、社会に向き合い、関わり合い、自らの人生を切り拓いていくことが強く求められている。主権者教育は、引き続き社会科学習において重要な位置を占めており、現実の社会的事象を扱うことのできる社会科ならではの教科の特性をふまえ、子供たちに平和で民主的な国家及び社会の形成者としての自覚を涵養することが求められる。

そうした中で、主に公民的分野での主権者教育を中心に授業実践を重ねてきたが、問いや追究資料、活動形態等の質が不十分だったため、子供が見方・考え方を十分に働かせて問題解決に至る姿が限られていた。そこで、子供が当事者意識をもち続ける中で、見方・考え方を適切に働かせて問題解決に至ることができるよう、これまでの主権者教育の実践を再構築することで、公民としての自覚を高め、今現在から将来にかけての社会参加・参画につなげたいと考え、本テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 「単元を貫く学習問題」を中心とした単元構成の工夫

子供の問いが連続し、学びが深まるように、授業一つ一つにつながりをもたせ、内容や時間のまとまりを見通した単元構成を工夫する。

② 問題解決を追究し続ける「当事者意識」の育成

単元を貫く学習問題と、自身の日常生活を結びつけることが、主体的な追究の持続に必要な「当事者意識」を育てると考える。レディネス調査の結果をもとに、子供が抱く社会的事象やその問題解決に対する思い・願いを授業展開にいかしながら、資料を活用して現実的に子供が得ている恩恵や将来的な関係性等に気付かせることで、「当事者意識」を高める。

③ 思考ツールとICT機器を活用した協働的な学びの工夫

個人→ペア活動→グループ活動の過程に、思考ツールとICT機器を効果的に活用することで協働的な学びを促し、互いの見方・考え方を取り入れて追究が深まるように工夫する。

④ 単元のまとめにつながる学習シートの工夫

専用の学習シートを活用し、毎時間の学びを自覚させることで、社会的な見方・考え方をふまえた単元のまとめ（問題解決）の表現につなげるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 本時の学習問題②に対する考えや単元のまとめの記述に、効率と公正などの社会的な見方・考え方を働かせた記述が表現されている。

「効率」…問題解決により得られる効果が、目的や時間、労力、費用に見合ったものか。

「公正」…問題解決により得られる効果が、様々な立場にとって受け入れられるものか。

② 事後アンケート項目「ICT機器の活用」「思考ツールの活用」「単元の学習シートの活用」に対する肯定的評価が80%以上ある。

③ 事後アンケート項目「当事者意識の向上」の肯定的評価が80%以上ある。

④ 事後アンケート項目「これからの社会参加・参画」の肯定的評価が増えている。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

「地方自治と住民参加～持続・発展する身近な地域の実現に向けて～」(教育出版)

(2) 単元(題材)の目標

- ① 住民自治を基本とした地方自治の考え方やしくみ、地方財政の実態、身近な地域の魅力や課題について、複数の資料を関連させながら理解し、知識として追究活動へ適切にいかす。【知識・技能】
- ② 身近な地域の持続・発展に向けた財源の活用策について、多面的・多角的に考察を進め、その過程や結果を適切に表現する。【思考・判断・表現】
- ③ 身近な地域の持続・発展に関心をもち、直接請求権の内容や地方財源の実態、財源の活用策の是非などを主体的に追究することを通して、住民自治に積極的に参加しようとする意欲を高める。【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 単元の評価規準

	達成した子どもの姿 (B)	達成した子どもの姿 (A)
知識 技能	身近な地域の持続・発展に向け、自治の仕組みや住民の権利、財政状況、市民のニーズなどを、諸資料から把握し、財源の活用策へ反映している。	身近な地域の持続・発展に向け、自治の仕組みや住民の権利、財政状況、市民のニーズなどを資料から適切に把握し、財源の活用策に十分いかすことができている。
思考 判断 表現	異なる視点・立場を取り入れながら考察を進め、対話をとおして、持続・発展につながる最終的な「市への提言」として表している。	効率と公正などに着目し、異なる視点・立場を取り入れながら、くり返し財源の活用策を練り直し、持続・発展につながる最終的な「市への提言」として具体的に表すことができている。※(4)具体例を参照
主体的	市民として、地域社会の魅力や課題等を見つめ直し、持続・発展に向けた提案の考察に取り組むことで、市の動向や自らの関わり方などへの意欲を高めている。	市民として、地域社会の魅力や課題等を見つめ直し、持続・発展に向けた財源の活用策を粘り強く考察することで、これからの市の動向を自分事と捉え、自らの社会参加・参画への意欲を高めている。

(4) 単元の指導計画と評価計画(全7時間 本時6/7)

単元で目指す深い学びの姿
☆身近な地域の魅力や課題をもとに、身近な地域社会の持続・発展に向けて、「ふるさと納税」などの財源を活かした地方行政に期待する活用策を考察し、表現できるようになった姿。 ☆主権者として身近な地域社会の形成に参加・参画し、その持続・発展に関わろうとする意欲を高めた姿。

↓ 具体例(人口維持に向けて「まちづくり」に注目した場合) ↓

「ポケットデータ三条 2024」を見ると、三条市の「定住人口」も他の市町村と同じく年々減少していることがわかる。 一方で、「市民アンケート」満足度1位に「交流人口の拡大」があることから、 <u>市の持続のためには、観光レベルの「交流人口」から増やしていくことから始めて、徐々に「定住人口」を増やしていくことが最適</u> だと思う。 そこで、「まちづくり」のうち「公園緑地等の整備」に財源をより活用することで、「ふるさと納税」返礼品としても人気があり、豊かな自然を体感できるアウトドア関連の来訪につなげる。これは「 <u>交流人口だけではなく、定住している市民にとっても、遊ぶ場所や家族で過ごす場所としてプラス</u> 」になる。 学習を通して、魅力ある三条市にはこれからも存在してほしいと思った。 <u>これからも一市民として、地域のことを考えて伝え続け、市の持続・発展に関わっていきたい。</u>	知識・技能 思考・判断・表現 (効率)(公正) 主体的に学習に 取り組む態度
---	--

次 時数	○学習内容	●学習活動・予想される生徒の反応	◆評価基準 ・評価方法
1	◎三条市を含む身近な地域に関して、どのような実態と予測があるのか。 ◆レディネス調査結果等をもとに、三条市の持続・発展に関心をもち、地域の特徴を既習事項等から再発見しようとしている。【態度】		
	①レディネス調査結果を共有する（前半）。 ②日本創成会議が発表した『消滅可能性都市※』（2024）を確認する。 ※2020年→2050年で、20～39歳の女性が50%以下に減る自治体。 ③三条市の「ふるさと納税」の実績を確認する。 ④レディネス調査結果を共有する（後半）。	①地域に対するプラス・マイナスの認識を知る。 →地域の良さや課題、地域への願い等に気付く。 ②新潟県は18/30市町村が「消滅可能性あり」となっているが、三条市は該当していない。（42%） →まだ持続が可能な魅力があるはずだ。 あと数%で持続が難しい状況になってしまう。 地方政治にも「人」と「金」が必要なはずだ。 ※人口は他地域と同じ減少傾向（約9.1万人） ③約15億円（R3）→約50億円（R4）へと急増した。 →持続可能な魅力があるからこそ納税件数が増えて、さらなる発展に向けた財源の確保にも光が見える。（R5は約44億円、全国36位） ④クラスで三条市の持続・発展を望む声は100% （「そう思う」：87.5%、「どちらかといえばそう思う」：12.5%）	・観察 ・ワークシート
	単元を貫く学習問題：「どのようにして、三条市の持続・発展を目指していくか。」		
	⑤単元を貫く学習問題に対する現時点での自分の考え（予想）を表す。	⑤農業、工業、観光、交通、伝統文化など、8年生の地理的分野の既習知識の確認やレディネスの回答を参考にして、考えを書き表す。	
2	◎三条市（身近な地域）は、どのような仕組みと住民の関わりによって持続してきたのか。 ◆住民自治を基本とした地方自治・地方分権の考え方やしくみ、住民に与えられた権利（直接請求権）を理解している。【知識・技能】		
	①地方自治と国の政治の仕組みの違いを資料から読み取る。 ②住民自治の考え方を理解し、地方自治が「民主主義の学校」と呼ばれている理由を説明する。	①国のトップの選び方（間接選挙）と違って、自治体のトップは住民が直接選挙で選ぶんだね。 ※現市長と県知事の氏名や任期等を確認する。 ②住民投票などの直接請求権で私たち地域住民の声を直接政治に届けることができるね。学習した国の政治に比べて住民との距離が近いね。そこから「民主主義の学校」と呼ばれているんだ。	・観察 ・ワークシート
3	◎三条市（身近な地域）は、どのような財源をもとに持続してきたのか？ ◆市町村合併の推移や地方行政の役割に関連させながら、地方財政の財源の種類や自治体間格差を理解している。【知識・技能】		
	①市町村合併について身近な県・市を例に確認する。 ②地方行政の役割を区別する。 ③地方自治体の財源の種類を理解する。 ④自治体間の税収格差による市町村合併の進行と、合併のデメリットを確認する。 ⑤三条市の市町村合併について考えをもつ。	①新潟県でも三条市を含めて合併が進められ、現在の30市町村となっているんだ。栄町・下田村と合併した結果が今の三条市なんだ。 ②国に対して自治体が担う役割が思ったよりも多い。役割を実行するためにはお金が必要だね。 ③地方財源には、地方税、地方交付金、国庫支出金、地方債という種類があるね。新潟県や三条市の財政状況は…やはり自主財源よりも依存財源が多い傾向にあるね。 ④少子高齢化や過密・過疎化に関連して税収の自治体間格差が大きいことも、合併の進行に影響しているんだ。 ⑤住民自治のために、合併をしない判断もあるけど、そのためには財源の確保が必要だね。	・観察 ・ワークシート

4	◎「ふるさと納税」の制度は、三条市にどのような影響をもたらしているのか。 ◆「ふるさと納税」の意図や三条市の実態（実績・活用先）について、諸資料から理解を深めている。【知識・技能／思考・判断・表現】	・観察 ・ワークシート ・タブレット
	①「ふるさと納税」の目的や三条市の実績・活用先について、諸資料から分析する。 ②次時の学習問題◎への個人の考えをもつ。	①R4の50億円突破(全国26位)につながる返礼品の人気上位には、金物製品（アウトドア系）・農産物などがあるね。使い道では、教育環境や地場産センターの運営等に使われているんだね。 ②「～という特徴があるから、●●に活用し、☆☆につなげる」を考える。
5 ① ／ 5 ② 本時	◎三条市は、財源をもとに、どのような活用策を優先すべきか。 ◆三条市の持続・発展に向けた活用策とその優先度について検討している。【思考・判断・表現】	・観察 ・ワークシート ・タブレット
	①前時の終末に考えた個人の考えを確認する。 ☆市の地域的特徴、これまでの活用実績、自分を含めた市民ニーズなどをもとに、「費用対効果」の視点をふまえ、三条市の持続・発展に向けて取り組むべき活用策を考える。 ②思考ツール「ダイヤモンドランキング」をもとに個人の考えを共有し、活用策の優先度をランキングで検討する。	①伝統的な金物産業があり、返礼品としても人気があるため、「地場産業」に活用して企業へのさらなる支援につなげる。 ①定住人口が減少しているため、「子育て・教育」に活用して負担を楽にし、若者世代の移住増と流出防止につなげる。 ①市民アンケートにて「交流人口の拡大」への満足度が高いため、「まちづくり」に活用してアウトドア関連の来訪につなげる。 ②自分と他者の共通点や相違点に気付き、考えを深化する。 例「これは財源に対して効果が、大きい or 小さい」「これだと一部の人のみへの効果になっている」→ともに、「効率」「公正」の視点から考え直す。
6	◎三条市の持続・発展に向けた考えを「提言書」にまとめよう！ ◆三条市の持続・発展に向けた三条市のあり方・財源の活用策等について、各自で「提言書」にまとめる。【知識・技能／思考・判断・表現／態度】	
	①これまでの学習内容を見直し、共通の形式の「提言書」を作成する。 ②各自の「提言書」をタブレット上で閲覧し、単元の学習全体を振り返る。	①「将来的に人口減少が予想される中、様々な負担を減らすことで転入者も増えるはずなので、教育・子育てを重視すべき！」など ②他者（自グループ外）の「提言書」にも目を通し、自分の最終的な考えを深化させる。

4 単元と学園生について

(1) 単元について

本単元の「地方自治と住民参加」は、『中学校学習指導要領』第2章第2節において次のように記述されている。

(2) 民主政治と政治参加

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり，解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

（エ）地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際，地方公共団体の政治の仕組み，住民の権利や義務について理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて，次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア）民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

また、現在の地方自治を取り巻く状況は、少子高齢化、情報化、グローバル化、経済の変動などの要因によって、急速に変化している。地方分権を推進する法律がつくられ、各自治体は、財政の健全化や組織の改編、市町村合併等の新しい枠組みづくりに取り組んでいる。さらに、子育て支援や防災対策、福祉、教育の充実などの多岐にわたる社会問題に、着実に対応しながら、活力ある豊かな地域づくりに向けた取組を、これまでの行政主導から住民主導へと移行していくことが必要不可欠である。そのため、誰もが安心して豊かに暮らすことのできる地域をつくる住民として、様々な地域の課題を解決しようとする態度や能力を育成することが求められている。

そこで、本単元では、次の2点を主なねらいとする。

- ・地域社会における住民の福祉は、住民自らの自発的努力によって実現し、住民参加による住民自治に基づくものであることや、住民自治を基本とする地方自治の考え方が、地方公共団体の政治の仕組みや働きを貫いている基本的な考え方であることを理解させる。
- ・地域社会に対する関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育む。

そのため、本単元では、「どのようにして、三条市の持続・発展を目指していくか。」という単元を貫く学習問題を設定し、地方自治の基本的な考え方や仕組み（「民主主義の学校」）を学習した後に、市が成果を残しつつある「ふるさと納税」に着目し、限られた財源を充てる活用策の優先順位を追究していく。持続・発展する地域づくりのために必要な活用策を主体的に追究・提案していく中で、主権者の一人、三条市で生活する住民の一人としての自覚をもち、現在から将来にかけての社会参加・参画に積極的に関わっていく態度や能力を育むことをねらう。

(2) 学園生の実態（回答者 24 名）

社会科学習と単元に関するレディネス調査結果		肯定的 ◀ ▶ 否定的										
①	社会科の学習は好き	66.7% (16)	25.0% (6)	8.3% (2)	0% (0)							
②	社会科の学習は得意（わかる）	20.8% (5)	41.7% (10)	37.5% (9)	0% (0)							
③	3分野の中で理解しやすい（わかりやすい）分野	地理 66.7% (16)		歴史 33.3% (8)								
④	自分は「資料から適切に情報を読み取ることができる」	25.0% (6)	62.5% (15)	12.5% (3)	0% (0)							
⑤	自分は「考察した内容をもとに学習問題に対する考えを表現することができる」	16.7% (4)	54.2% (13)	29.2% (7)	0% (0)							
⑥	自分は「学習問題の解決や学習の理解に向けて、真剣に粘り強く取り組んでいる」	41.7% (10)	45.8% (11)	12.5% (3)	0% (0)							
⑦	自分が主体的・前向き・積極的に学習に取り組むことができる学習形態 ※複数○	個人活動 70.8% (17)		ペア活動 25.0% (6)	グループ活動 70.8% (17)							
⑧	社会科の学習は、将来的に役に立つと思う	75.0% (18)	20.8% (5)	4.2% (1)	0% (0)							
⑨	三条市のまちづくりは順調に進んでいると思う	8.3% (2)	79.2% (19)	12.5% (3)	0% (0)							
⑩	⑨の理由	○鉄アイスなど三条の魅力进行いかした観光資源を活用しているから。 ○公共施設が整っているから。 ○伝統行事をみんなで大切にしているから。 △ゴミ処理や街灯不足が気になるから。 △あまり変わっていないと思うから。										
⑪	三条市での生活に満足している	37.5% (9)	54.2% (13)	4.2% (1)	4.2% (1)							
⑫	⑪の理由	○…自然が豊かで住みやすいから。 △…平和で過ごしやすいが、道路が狭く、自転車用道路も整備してほしい。 ×…子供が遊べるところ公園やショッピングモールが少ないから。										
⑬	三条市での生活	ずっと居住 16.4% (4)	就職で市外 29.2% (7)	高卒で市外 50.0% (12)	中卒で市外 4.2% (1)							
⑭	三条市のまちづくりに ついて知っていること	・和釘などの金物産業、関連した鉄アイスが有名なところ。 ・水害に耐えられるような堤防を整備していること。 ・有名企業（スノーピーク）と連携していること。										
⑮	三条市が他の市町村にアピールできる魅力 ※複数○	自然 50.0% (12)	農業 20.8% (5)	工業 37.5% (9)	交通 0% (0)	伝統文化 66.7% (16)	観光 8.7% (2)	教育 0% (0)	スポーツ 4.2% (1)	福祉 0% (0)	財政財源 0% (0)	その他 0% (0)
⑯	三条市には今後も持続・発展してほしい	87.5% (21)	12.5% (3)	0% (0)	0% (0)							
⑰	三条市がこれからも持続・発展していくために必要なこと	・伝統工芸や行事などの魅力の発信、継承にお金をもっとかける。 ・子育て支援。 ・人を留める、増やす。 ・新しいイベントを積極的に行う。 ・自然環境を保つ。 ・地域の人々に役立つような公共施設の整備。 ・いろいろな手当を手厚くする。										
⑱	今後、三条市の持続・発展に向けた取組に参加してみようと思う	33.3% (8)	45.8% (11)	16.7% (4)	4.2% (1)							

ほとんどの学園生は、将来的に役立つ（項目⑧）と社会科の学習を肯定的に捉え、授業に真面目に取り組んでいる。社会科が好き（項目①）と答える割合が高いが、「覚える内容が多い」などの理由から「社会科の学習を得意」（項目②）とする割合は下がっている。

また、真剣に学習に取り組む一方で、資料の読み取り（項目④）や考察した内容を表現すること（項目⑤）について自信がない学園生が多い。交流場面では各々の考えを伝えるのみで終わってしまう場面も多々見受けられるが、グループ活動を通して追究することへの意欲（項目⑦）は高く、交流活動を通して自らの考えを深化させる姿もある。

本単元で扱う三条市については、「まちづくりが順調で満足している」と肯定的に捉える学園生が多くいる一方で、知っていることや他市町村へアピールできる魅力等への認識が不十分または限定的であるため、8年生地理的分野の内容や新たな知識を諸資料から取り入れながら、単元を進めていく必要がある。

また、市の持続・発展に向けた政策を追究する場面では、タブレット機器を活用し、学園生が地域の魅力や課題について諸資料から適切に情報を選択・把握した上で、多様な視点（自然・地場産業・農業・交通・伝統文化など）と、立場（若者、子育て世代、高齢者、交流人口など）から多面的・多角的に考察を深めることができるようにしたい。

そして、自他の活用策を比較・検討する場面では、「費用対効果（限られた財源の中で最も有効なものか）」の視点を重視するが、その中に、「効率」（効果が目的や時間、労力、費用に見合ったものか）と「公正」（様々な立場にとって受け入れられるものか）といった公民的分野の学習で欠かせない見方・考え方も含めながら追究させることで、考えの深化を促し、最終的な「三条市への提言」をより納得した内容で表現することにつなげたい。単元の学習を終えた後に、学園生が身近な三条市のまちづくり・魅力・課題に対する認識を深め、持続・発展に向けた現在から将来にわたる取組への参加意欲を高めることを期待したい。

5 本時の展開（令和6年10月30日実施）

(1) ねらい

三条市が持続・発展していくためには、限られた財源をもとに、どのような根拠から、どのような活用策を実施することが優先されるべきかについて、他者と比較・検討しながら考えを深める。

【思考・判断・表現】

(2) 展開の構想

- ① 前時に個人で追究した財源の活用策について、グループで根拠・活用先・効果を共有し合う場面を設けることで、多面的・多角的に追究が深まるように働きかける。
- ② タブレットと思考ツールを活用することで、協働的な問題解決を促す。

(3) 展開

時間	学習活動・内容・予想される反応（S）	教師の働きかけ（T）	○留意点
導入 5分	単元を貫く学習問題◎：どのようにして、三条市の持続・発展を目指していくか。		○前時 ・ワークシート配付 ○パワーポイント提示
	S1：前時までの活動を確認する。 ①「民主主義の学校」とされる地方自治の仕組みと直接請求権等が表す住民自治。 ②市が担う仕事内容と市が支出する財源の実態から捉える市町村合併の理由。（現三条市も合併を経験） ③市が期待する「ふるさと納税」の推移と現時点での使い道。 ④各自が考えた財源の活用策をタブレット上で共有する。 S2：本時の◎と活動内容を確認する。	T1：スライドで前時までの学習内容を示す。③については、市の「ふるさと納税」担当者の言葉に改めて注目する。 ・ <u>三条の魅力を掘り起こし、持続・発展を狙って取り組む最中。</u> ・ <u>何を優先させるか、市民の声を元にして財源を大きく割り振っている。</u> ④本時で活用する Google スプレッドシートを共有する。 T2：本時の◎と活動内容を示す。	
	本時の学習問題◎：限られた財源をもとに、どのような活用策を優先すべきか。		

	S3：前時までに各自が考えた財源の活用策をタブレット上で閲覧する。5分 【財源の活用策のモデル】 根 拠…～という魅力・課題があるため 活用先…「 」に財源を充てることで 効 果…★★という効果につながる	T3：タブレット上の自他の活用策の閲覧が進んでいるかを支援する。5分	○タブレットの活用を促す																																										
展開 40分	☆伝統的な金物産業があり、返礼品としても人気があるため、「地場産業」に活用することで、企業へのさらなる支援につなげる。 ☆豊かな自然環境による豊富な農作物があるため、「農業」に活用することで、ブランド化が進み、農家への支援や後継者の確保につなげる。 ☆定住人口が減少しているため、「子育て・教育」に活用することで、負担を楽にし、特に若者世代の移住増と流出防止につなげる。 ☆市民アンケートにて「交流人口の拡大」への満足度が高いため、「まちづくり」の中の「公園緑地等の整備」に活用することで、流行のアウトドア関連の来訪につなげる。 ☆市民アンケートと生活経験から交通面に課題があるため、「まちづくり」の中の「道路網の整備」「公共交通対策の拡充」に活用することで、日常生活の利便性向上につなげる。	T4：ランク分けの理由を明示させ、「費用対効果」の視点から検討を繰り返した結果をタブレット上の「ダイヤモンドランキング」にまとめさせる。																																											
	S4：グループで思考ツール「ダイヤモンドランキング」に取り組み、「費用対効果」の視点から、活用策の優先度を考える。25分 ①順番に自分の活用策をグループの人に説明する。 ②グループ外の人々の活用策についても協議する。 ★Aさんの提案は、～という魅力を高める or 課題を改善するためには効果的だと思うけど、実行するとすると、けっこうお金を使ってしまうたり、一部の人にしか利益がなかったりしないかな。 ★Bさんの提案は、実現しやすいと思うけど、～という魅力を高める or 課題を改善するならば、「～」にお金を使ったほうがいいと思う。	<table><tr><th colspan="2">財源の活用策</th><th colspan="2">自分の活用策</th><th colspan="2">他者の活用策</th></tr><tr><th colspan="2">ダイヤモンドランキング</th><th colspan="2">どのようにして、三楽市の発展・改善を目指していくか？</th><th colspan="2">得られた利点をもとに、どのような活用策を優先すべきか？</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td>1</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>2</td><td></td><td>2</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>3</td><td></td><td>3</td><td></td></tr><tr><td>4</td><td></td><td>4</td><td></td><td>4</td><td></td></tr><tr><td>5</td><td></td><td>5</td><td></td><td>5</td><td></td></tr></table> 優先度 高 ← ↑ ↓ 低	財源の活用策		自分の活用策		他者の活用策		ダイヤモンドランキング		どのようにして、三楽市の発展・改善を目指していくか？		得られた利点をもとに、どのような活用策を優先すべきか？		1		1		1		2		2		2		3		3		3		4		4		4		5		5		5		T5：グループの類似点や対立点にふれ、自分の活用策の再考にいかせるか問いかける。
財源の活用策		自分の活用策		他者の活用策																																									
ダイヤモンドランキング		どのようにして、三楽市の発展・改善を目指していくか？		得られた利点をもとに、どのような活用策を優先すべきか？																																									
1		1		1																																									
2		2		2																																									
3		3		3																																									
4		4		4																																									
5		5		5																																									
まとめ 5分	S6：自分の提案を再考し、他の提案との優先度にも目を向けながら、次時の提言書作成の見通しをもつ。本時の振り返りを記入する。	T6：本時をふまえ、自分の提案を再考し、他者の提案や「効率」「公正」をふまえた提言書にまとめることを伝える。																																											

(4) 評価

評価方法：ワークシートの記述（振り返りを含む）、交流場面での話合いの様子

観点	達成した子どもの姿（B）	達成した子どもの姿（A）
思考判断表現	根拠を示しながら自分の提案を他者に伝えた上で、他者との意見交流によって得た新たな根拠・活用先・効果を取り入れて自分の提案を少なくとも1か所は見直し、次時の提言書の作成に向けた見通しをもつことでできている。	効率と公正などに着目し、根拠を示しながら自分の提案を他者に伝えた上で、他者との意見交流によって得た新たな根拠・活用先・効果を取り入れて自分の提案を複数か所見直し、次時の提言書の作成に向けた具体的な見通しをもつことでできている。

6 実践を振り返って

(1) 授業の実践【「2 (2) テーマに迫る手立て」との関連をふまえて】

① 三条市をめぐる「消滅可能性」と「ふるさと納税」の実態から単元を貫く学習問題を設定した。

※「3 (4) 単元の指導計画 第1次」

事前アンケートで把握した生徒の三条市に対するやや肯定的な認識（どちらかといえば順調・満足）に対して、次の2つの客観的資料を与えた。資料1「消滅可能性都市（「人口戦略会議」が2024年に発表）」からは、1700を超える日本全体の市町村のうち約40%、新潟県全30市町村のうち約60%が、2050年での「消滅可能性」を示唆されている中で、三条市が辛うじて「消滅」を免れるという予想があることを共有した。生徒たちはその実態に驚き一定の安心感を得ると同時に、「これからの三条市はどうなっていくのだろう…」という不安や危機感を抱いた。次に、資料2「ふるさと納税の実績（市HP）」からは、三条市が県内上位の寄付金額（近年は40～50億円）を誇っていることを共有した。生徒たちはその増加傾向に注目し、「三条市に魅力があるからこそ寄付してくれる人や金額が増えている」と気付くとともに、「この良い状況が続けば『消滅』も回避できるのでは」という期待感を得た。

そして、2つの資料から分かったことを「単元の学習・振り返りシート」（**手立て④**）に整理した上で、個々に抱く問いや期待・願いを表現する場を設定した。「どうすれば、三条市を続けることができるか」「せつかく増えたお金を使って三条市をより良くしてほしい」「ふるさと納税で得たお金は何に使われているのか」などの個々の問いや願いを共有した上で、単元を貫く学習問題「どのようにして、三条市の持続・発展を目指していくか」を設定した。

このように、事前アンケートを活用しながら、客観的資料1・2をもとに身近な政治に対する問題意識を生み出すとともに、その後の追究活動を支える「当事者意識」を高める工夫を、単元の導入に設定した。（**手立て①②**）

② 身近な政治を支える仕組みや直接請求権、市町村合併に関連する事務・財源の種類を学習した。

※「3 (4) 単元の指導計画 第2・3次」

三条市の持続・発展を追究する上で必要な知識・技能（教科書内容）を、三条市の具体例を取り入れながら学んだ。国政以上に民主主義を反映しやすく、住民の影響力が高いといえる仕組みや権利を理解するとともに、地方自治体に委ねられている事務の多さと税収格差に起因する市町村合併の推移等について確認した。持続・発展のための合併をするかしないかを意見交換した場面では、「合併することで市全体のムダがなくなり、効率的な運営ができる」という賛成意見が出た。それに対して、「範囲が広くなりすぎると、一部の市民のニーズが反映しにくくなる」という反対意見があり、「効率」「公正」といった社会的な見方・考え方を再確認することができた。

③ 三条市の魅力や課題、三条市への願いを共有し、「ふるさと納税」の実績・活用先を資料から把握した。

※「3 (4) 単元の指導計画 第4次」

思考ツール「PMHシート」（図1）をGoogleスライドで作成し、個人→グループ→全体の流れで共有した（**手立て③**）。事前アンケートでもふれた視点（自然環境、第1～3次産業、伝統文化、観光、食、交通、子育て、教育、スポーツ、その他）について、「魅力（**P**lus）」「課題（**M**inus）」「期待（**H**ope）」を共有した。

その後、「ふるさと納税の実績」（市HP）を改めて調べ、互いに魅力だと感じていることが実際の返礼品として人気が高く、三条市の財源を潤わせていることに気付いた。

③第2次産業（工業・製造業）

⑥観光・食・交通

★魅力だと感じること★ (P: Plus)	△課題だと感じること△ (M: Minus)	★望む・求める・期待すること★ (H: Hope)	★魅力だと感じること★ (P: Plus)	△課題だと感じること△ (M: Minus)	★望む・求める・期待すること★ (H: Hope)
☆和釘が有名 ☆金物が有名 ☆地場産業になっている ☆ものづくりが発展していることが全国各地で知られていること。 ☆金物という三条独自の物があること ☆金物の町 ☆工場の祭典に選ばれた ☆箸が有名 ☆アウトドア用品	△「The 金物！」っていうイメージが染みついて金物以外があんまりって感じがする △跡継ぎ △人手不足 （SNSで発信） △知名度がない △和釘以外のものをもう少し増やす △職人不足 △近所迷惑、音うるさい	★安全性 ★金物の技術を使って機械なども作ってほしい ★魅力を発信していく ★もっと三条の金物のことを知らせてほしい ★若者がやる ★金物に関する資料館がほしい ★金物のことについてSNSでさらに発信して広めてほしい ★もう少し和釘を使ったものを増やしてほしい	☆米 ☆車麩 ☆カレーラーメン ☆カル・レクチェ ☆食べ物屋が多い ☆昔ながらの道がある ☆大崎山楽しい ☆新幹線が通っているから交通に便利 ☆気軽に新潟市や長岡市など発展してるところに行ける ☆自然を生かしたキャンプ場がある ☆地場産業センターがある。 ☆近くにたくさん電車が通っている。 ☆道路が整備された	△電車・バスの本数が少ない △観光スポット少ない →人口が増えない △歩道がないところもある 道路が狭いところもある →危険 △下田などの山奥に行くのが大変 △下田の方にスーパーなどがなくて大変	★観光地ほしい ★歩道を作ってほしい ★街灯をつけてほしい ★バスの便を増やしてほしい ★遊園地を作ってほしい ★冬場も雪害に侵されない工夫を ★道が狭い道路があるから広くしてほしい ★大きい道路を作る ★交通の条例を増やす

④ 持続・発展につながる財源の活用策を、根拠と効果も含めて比較・検討した。(本時含む)

※「3(4)単元の指導計画 第5次」

1時間目は、個人で各資料をもとに考察を進め、思考ツール「根拠・活用先・効果シート」(図2)をGoogleスプレッドシートで作成した(手立て③)。「活用先」が主観的な考えになりすぎてしまうことを防ぐため、「根拠」の枠を設け、主観的かつ客観的な根拠による活用先となるように図った。資料は、前時までの「Googleスライド」「ふるさと納税の実績」に加え、「ポケットデータ2024」「市民アンケート概要」「市民アンケート満足度・重要度・市民ニーズ度」「三条市のおしながき2024」(市HP)を授業者から提供した。それ以外の情報を自主的に収集することも認め、データ元を明示した上で根拠に活用した生徒もいた。「効果」の枠では、「誰に・どの世代に対する効果」なのかという多角的な部分への言及も求めるとともに、持続・発展に向けて「効率」的、「公正」的なのかという社会的な見方・考え方から比較・検討できるように、スライド等で繰り返し着目させた。

3	根拠・活用先・効果シート	単元 ③ どのようにして、三条市の持続・発展を目指していくか?	本時 ④ 限られた財源をもとに、どのような活用策を優先すべきか?
活動：これまでの学習をふまえ、三条市の持続・発展に向けて優先すべき財源の活用策を考えよう！ ☆「根拠」(どんなデータ・経験から?)→「活用先」(より具体化を!)→「効果」(どのような人に対するどのようなプラス面?)の順で活用策を考える。			
優先度	根拠 (資料「～」の～から、～という魅力・課題・要望があるため)	活用先 (「～より具体的な内容～」に活用すること、)	効果 (～に、～という効果・プラス面があり、持続・発展につながる!)
1	市民アンケート「各分野の満足度及び重要度」の資料より、充実度・満足度共に高いため、多くのニーズがある。これを理由に住み続けてくれている人、また、移住を考えている人に向けて、子育てに関する政策は続けるべき。	「子育て環境の充実」 子どもが自由に体を動かせる場所が少ないため、広々とした公園がある。道路との境に仕切り(柵など)があり、サッカーなどしてもボールの出て行きにくい。公園。大きな遊具もあって、隣に図書館を配置することで保護者の休憩スペースの確保も可能。(ガラス張りにして常に見張れるように)	子どもが自由に遊べる場所が少ないため、保護者と一緒でも遊べる、他の子ども関わることの出来る大きな公園ができることで、休日の行き先にもなる上、体作りにもなる。また、そのような公園は市外からも人を呼ぶので、交流人口の増加にもつながる。

図2

2時間目(本時)は、各自が考察した「根拠・活用先・効果シート」をグループで共有した後に、Googleスプレッドシートで思考ツール「ダイヤモンドランキング」を用いて、活用策の優先度を決める活動を行った(手立て③)。図2で示した生徒Aのグループでは、活動時間の終盤までAが主張した「子育て環境の充実」と、生徒Bが主張した「医療機関の充実」で優先度1位の対立が続いた。最終的には、「福利厚生を充実させて医師を確保→医療機関に医師を充てる→医療機関1つあたりの患者の集中を防ぎ、効率的な医療提供につなげる」という「効率」面と、「医療の方がすべての世代の市民にとって効果が生まれる」という「公正」面から、「医療機関の充実」を1位にすることで合意に至った。

時間の関係で全13枠を埋めることができなかったグループもあったが、全体共有をして次時の「提言書」づくりにつなげた。1・2班は「除雪体制の工夫」、3・4班は「子育て環境の充実」、5班は「医療機関の充実」、6班は「若者の集う居場所づくり」を優先度1位の活用策にした。まとめの段階で、各グループ結果からさらなる問いかけ(●班が1位にしている活用策を■班は低位にしている理由は?など)をすることができなかったため、次時⑤の前半で実施し、9枠の「ダイヤモンドランキング」(図3)で再考させた。

財源の活用策 ダイヤモンドランキング	単元の学習課題③ どのようにして、三条市の持続・発展を目指していくか？	本時の学習課題④ 限られた財源をもとに、どのような活用策を優先すべきか？	
【優先度 1 位の根拠】 ・市民ニーズ度が 1 位 ・医療が行き届いていない地域がある ・医師不足	【優先度 1 位の活用先】 「医療機関の充実」 ・福利厚生 ・ワクチンの活用 ・医療センターの新設	【優先度 1 位の効果】 ・高齢者の 3 人のうち 1 人に带状疱疹ワクチンが必要とされており、接種によって高齢者の人口減少を防ぎ、市町村合併を防げる。 ・医師が増えることで医療機関が増え、一つの医療機関の患者の集中を防ぐことができ、待ち時間の減少が実現できる。	優先度 高
	「子育て環境の充実」 ・公園（道路との境に柵） ・図書館併設	「交通網強化」 ・信号改革 道路広く ・ガードレール整備	2
3	「除雪対策」 ・ロードヒーティング ・除雪車の新規購入 ・敷地の広いところに機械貸す	「魅力を発信」 ・三条の魅力を発信する拠点みたいなもの（地場産品みたいな） ・鉄コウなど名物を給食に出す	「環境問題」 ゴミ拾いボランティア活動の実施 3
4	「生涯を通して出来る趣味の提供」 ・スポーツが出来る場所 ・楽器に触れられる場所	「第 2 次産業の復興」 ・事業者への福利厚生を充実	4
	【優先度 5 位の活用先】 「三条市のイメージアップ」		優先度 低

図3

⑤ 「市への提言書」(持続・発展につながる財源の活用策と自身の向き合い方)を作成した。

※「3(4)単元の指導計画 第6次」

単元のまとめとして、自分が最終的に選ぶ財源の活用策ベスト3と、地方自治に対する自分自身の向き合い方の記述(図4)を含めた「提言書」を作成した。活用策ベスト1位に選んだ内訳は、「交通面の整備6」「子育て環境5」「若者の居場所づくり3」「除雪体制の改善6」「医療機関の充実4」「伝統産業(金物)の継承1」となった。

② 三条市を中心とした「地方自治と住民参加」の学習を通して、学んだこと・感じたこと・身近な地域の政治に対する自分の関わり方などについて、以下に述べます。

A 地方自治は、地域住民が納得、満足して成り立つもの、それ故に地域住民が意欲的に参加しなければ始まらないものだと思った。自分たちのリーダーを選挙によって自分たちで決め、自分たちの考えをリーダーたちに伝えて地域を良くしていくのが地方自治の基盤だと分かった。しかし、これらには必ずしも地域住民の参加が必要で、近年見られる若者の投票棄権や、政治への関心が薄れていることは、今後の日本の地方自治において重大な問題なのではと考えた。この授業で考えたように、市へ提言書を作るなどして、地方自治、そして政治にしっかり関心を持って、責任を持って地方自治に参加していきたい。

図4

(2) 研究テーマに関わる評価(回答者25名)

- ① 本時の学習問題②に対する考えや単元のまとめの記述に、社会的な見方・考え方を働かせた記述が表現されている。(表1)

【3(3)単元の評価基準より】	C評価	B評価	A評価
知識・技能	1人(4%)	6人(24%)	18人(72%)
思考・判断・表現	0人(0%)	15人(60%)	10人(40%)
主体的に学習に取り組む態度	2人(8%)	10人(40%)	13人(52%)

私の提言書 ～三条市の持続・発展に向けて～		三条市立大崎学園 9年
氏名		★★ ★★
① 三条市の持続・発展に向けて、限られた財源の「活用先」を「根拠」「効果」とともに、以下に提言します。		
根拠	活用先	効果
金物の町としてふるさと納税の返礼ランキングを見ると「金物」が多く売れているが、総務省HPによると、安価な輸入品の増加によって職人が減少し、技術伝承が危ぶまれていると書かれているから。	「地場産業(金物)」小、中学校の授業に金物体験に参加できる制度を作ったり、金物に関するイベントを増やしていく。また、鍛冶職人の時給を上げる。	鍛冶職人の増加や技術の伝承がスムーズにできる。三条市の「ふるさと納税」の金額が増加するので、他の幅広い細かいところまで必要な資金を充てることができる。

図5

- ② 事後アンケート項目「ICT機器の活用」「思考ツールの活用」「単元の学習シートの活用」に対する肯定的評価が80%以上ある。
- ③ 事後アンケート項目「当事者意識の向上」の肯定的評価が80%以上ある。

表2 【質問項目】回答者25名	肯定的	やや肯定的
②タブレットを活用したことで、資料分析や自分の思考、他者との協働的な学習が促されましたか?	24人(96%)	1人(4%)
②思考ツールを活用したことで、自分の思考や他者との協働的な学習が促されましたか?	24人(96%)	1人(4%)
②単元の学習シートを通して、毎時間の学びを自覚し、学習問題について考えを深めることができましたか?	22人(88%)	3人(12%)
③当事者意識をもって、三条市を中心とした「地方自治と住民参加」について追究することができましたか?	22人(88%)	3人(12%)

- ④ 事後アンケート項目「これからの社会参加・参画」の肯定的評価が増えている。
- 「現在～将来にかけて、三条市の持続・発展に向けた取組に参加してみようと思いますか？」

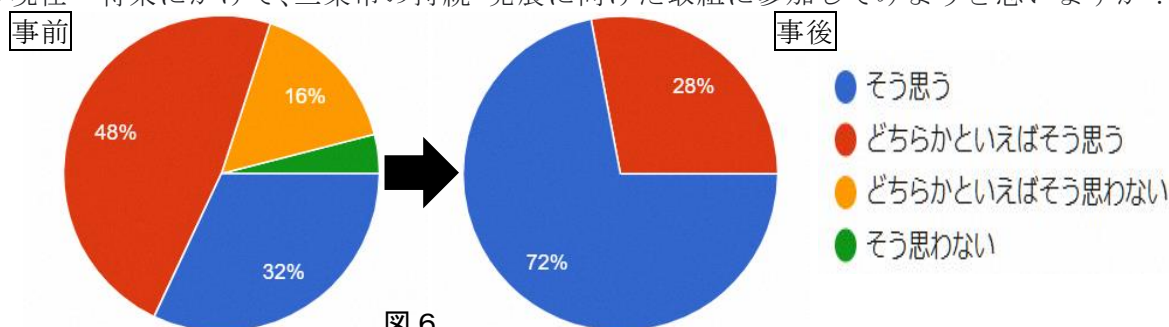


図6

上記の表2および図6より、単元構成を工夫した本実践の追究活動を通して、生徒は身近な地域の政治や住民参加に対する当事者意識を高め、これからの社会参加・参画について思いを強めたことを自覚できたと判断できる。その要因には、授業者が手立てとした「ICT機器」「思考ツール」による協働的な学習の成立、「単元の学習シート」による学びの可視化・自覚化などが有効に働いたといえる。

一方で、上記の表1で示した単元の評価基準に基づく授業者の評価から捉えると、思考・判断・表現で求めた「社会的な見方・考え方」を働かせた記述が約40%に留まった。図5の生徒は、現時点で「ふるさと納税」の返礼品として上位になっている金物産業にさらなる財源を充て、人材確保と伝統技術の継承を進めることで、より「効率」的に財源を増やし、その財源を他の分野にも万遍なく（「公正」的に）充てることで、持続・発展を目指すことを提言した。その他の生徒は、共通の資料+αを適切に収集・分析して、活用策の根拠を明らかにできた生徒は多かったが、その策の具体性が不十分であったり、図5のような「効率」「公正」の視点が不十分であったりした。また、主体的に学習に取り組む態度については、「自分は～」という表現が不十分であった生徒（B評価）が多数おり、生徒自身が自覚した「当事者意識」の向上の中身を批判的に分析し直す必要がある。

(3) 今後の課題

① 「当事者意識」を高める「単元を貫く学習問題」の設定

本実践では、単元導入時に客観的な資料提示から生徒の認識を揺さぶり、問いや願いを共有した上で、「当事者意識」を高める「単元を貫く学習問題」を設定した。教科書内容をふまえた上で、そのような単元構成を工夫することは、時数等の調整が不可避だが、今回のように、「ICT機器」や「思考ツール」を活用することで、そのハードルが十分下がるといえる。中核となる社会的事象に関するレディネス調査から生徒の実態を把握し、精選した資料をもとに生徒が追究を進める様々な過程を想定して単元構成を工夫する。そうすることで、生徒がより主体的に問題解決に向き合うことができるようにしていきたい。

② 「思考ツール」の再考

今回採用した「ダイヤモンドランキング」には再考の余地がある。優先度を比較・検討するねらいについては有効であったが、本時にて13枠（1・3・5・3・1）設定した型については9枠（1・2・3・2・1）などに設定することや、ツールの何を・どこに・どのように示すのかという説明をもう少し丁寧に行うことで、「効率」「公正」といった見方・考え方に基づくより深い話し合いに時間を充てることができたと考えられる。

今後も、学習問題や学習形態に応じて適切な「思考ツール」を活用していくが、手段が目的とならぬように精選していきたい。

③ 全体交流の場面における教師の出場（働きかけ）

本時において、各グループの「ダイヤモンドランキング」を全体で共有した際に、それぞれの内容について捉え直しや問い返しをした後すぐに、個々の振り返り時間に移ってしまった。グループ①②が「除雪体制の工夫」、③④が「子育て環境の充実」、⑤が「医療機関の充実」、⑥が「若者の集う居場所」という活用策を優先度1位に挙げたことに対して、「グループ●が優先度1位にしている活用策をグループ■は低位にしているけど、なぜ？」「このクラスの優先度1位の活用策はどれにする？（「効率」「公正」の視点からどれが1番の活用策かな？）」などと教師の出場を見極め、適切に働きかける必要があった。生徒の気づきや考えを受け止め、立ち止まり、全体に広げていくことで、生徒個々や学習集団全体の思考をさらに深められるような働きかけを心がけていきたい。

<参考文献>

- ・文部科学省.『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』.東洋館出版社.2018.
- ・国立教育政策研究所.『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校社会】』.東洋館出版社.2020.